

[プロジェクト名]	[分野]
茨城大学教育学部キッズ・クラブ実施プロジェクト	教育・研究 ボランティア 地域交流
[代表者]	
教育学部・国語選修・2年 吉田幸恵	
[参加者]	
宮本 豪（教育学部・教育基礎選修・3年） 関 真奈美（教育学部・養護教諭養成課程・2年） 廣澤 惇美（教育学部・教育基礎選修・2年） 吉田 幸恵（教育学部・国語選修・2年） 櫻村 彩沙（教育学部・家庭科選修・1年） 福田 香（教育学部・社会選修・1年）	
[連携先]	
水戸市教育委員会、水戸市内の小学校	
[プロジェクトの実施計画概要]	
<p>完全学校週5日制が導入され、週末の子どもの居場所が課題となっている。また、子どもの直接的体験が乏しくなっているとも言われている。</p> <p>本プロジェクトは子どもの参加者を固定し、連続開催として、学生による自主企画に加え、本学教育学部の教員の協力を得た企画を通して科学技術や自然、ものづくりへの子どもの関心・興味を育み、科学的学習や思考の動機づけとなるような様々な体験的な講座を実施する。地域の子どもたちに貢献することにより、学生も彼らから様々なことを学び取ること、学ばせていただくことを目的とする。</p> <p>水戸市内の学校の児童に向けて参加を募ることによって、子どもたちが自分の学校以外の子と知り合い、企画を通して、新しい人間関係を築いてほしいというねらいもある。</p> <p>これらの活動により、本プロジェクトの要請に応えるものである。</p> <p><対象者>茨城大学に通える地元の小学4・5・6年生、25名</p> <p><プロジェクトの計画></p> <p>(1) 参加者を25名に固定して行う。目の届きやすい人数であり準備物（予算）の都合、また指導上・安全面の配慮によるものである。</p> <p>(2) 連続開催として実施する。単発的一過性なイベントではなく、連続開催することでお互いを知ることができるので、子ども一人一人に合わせた対応が可能になる。それによって子どもたちがより良い環境で活動に取り組むことができるだけでなく、子どもの成長、学生との深い関わりが実現できる。</p> <p>(3) 普段できない体験ができるようにする。開催場所は主に茨城大学内の教室である。星座観測会を兼ねたキャンプや、ろうけつを利用した作品作り、トイレットペーパーの芯を用いた万華鏡作りなどで得られる新しい発見を通して、他のものごとにも興味・関心の幅を広げさせることができる。</p> <p><プロジェクトの内容></p> <p>夏を感じる作品作りや万華鏡作り、毎年恒例の星座観測会、クリスマスレクチャーなどを予定している。</p>	
6月30日	天下一運動会（アイスブレイク）
7月14日	先生企画（夏を感じる作品作り）
9月1日	自主企画（トイレットペーパーの芯から万華鏡作り）
9月29日	先生企画
10月20、21日	天体観測

11月10日	先生企画（木材加工）
12月1日	自主企画（料理企画）
12月22日	クリスマスレクチャー

<これまでの実績と期待される効果>

平成18年度のキッズ・クラブ参加者へのアンケート回答から

【子ども】

おかゆDEパン※は初めての体験で少し意外でした。

※レトルトのおかゆから作るパン

ふだん手作りできないものも手作りできてみんなで楽しむことができました。

【保護者】

毎回新しい発見や体験をして、楽しかった様子で話してくれました。

家庭では経験させられない種々のことを行わせていただき感謝しています。いつもとは異なった友達、学生のお兄さん、お姉さんとのかかわり合いが、いつもの生活と違い、刺激になりはげみになった様です。

ひとりっ子なので、お兄さん方と楽しく交流できたことはこれからのこの子にとってとても貴重な時間だったと思います。

こんな笑顔で写真にとってもらったのって家にあったかなと思うぐらいの最高の笑顔でした。

【学生】

授業だけでは味わえない経験をたくさんした。

子どものために企画を考えるプロセスと授業を考えるプロセスは似ているので、将来教師になった時に生かせると思った。

学生も子どもとの関わりでたくさんの事を学ぶことが出来たが、子どもからも保護者からも好評を得ることができた。今年も昨年の経験を生かし、またこのような感想をもらえるよう、計画、実行していきたい。

【プロジェクトの成果報告】

（１）特筆すべき成果

今年度から学生参画プロジェクトに経費の支援をしていただいた。1つのプロジェクトを動かす大変さを知った。そして運営をしていくにあたって、地域の方、各小学校の先生方、保護者の方々との関係作りが大切であると感じた。特に10月に行った天体観測では、子ども達を私達学生に預けてお泊まりをさせて頂けたと言うことは、多少なりとも私達を信頼してくださっている成果であると感じた。そして子ども達も全8回の企画を通して仲良くなっていったようだ。それだけでなく、木工の企画では難しいデザインのものをねばり強く完成させた子や、違う学校の子で対立していた子同士が作業を通して仲良くなっていった様子などが見られた。子ども達にとってもキッズ・クラブが貴重な経験をした場所であったと感じている。

（２）思ったような成果をあげられなかった事項

第3回キッズ・クラブではグミを作ったのだが、グミを持って帰って1日置いた場合どうなるか検証していなかったため、劣化し食べられなかったという事態を招いてしまった。

（３）地域の方から寄せられた意見・感想

保護者の方にもキッズ・クラブの活動に興味を持って頂いた。12月のクリスマスレクチャーの後保護者の方から「とてもいいクリスマスを送れた。」との声も頂いた。2月に子ども達と保護者にアンケートを送る予定だったのであまりたくさんの保護者の方の意見をここに載せることが出来なかった。

（４）学生参画プロジェクトに参加して得られたメリット・デメリット

他学部の学生や教授にキッズ・クラブというものがあるということを知って貰えたことがメリットではないかと思う。デメリットは、1回に物品を購入する量が少ないので金額が余ってしまったこと、そして物品の申請は何日も前に行わなければいけないので急遽企画を変更した場合別の物品を購入できず、自費で買うことになってしまった。これが予算を上手く使えなかった原因であると思う。

(5) その他

授業中に物品申請についての電話がかかってくることが多く連絡のすれ違いが多かったように思う。